平成　29 年度

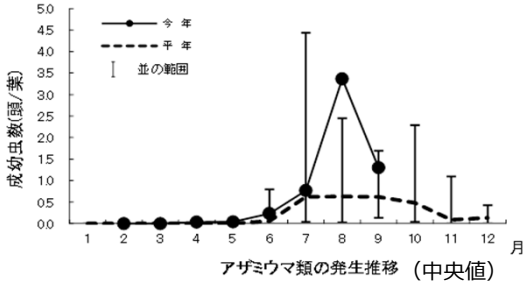
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
9 月の発生量（現況）	並		
10 月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移、新梢の発生が続いていることから、９月と同程度の発生量と考えられる。		

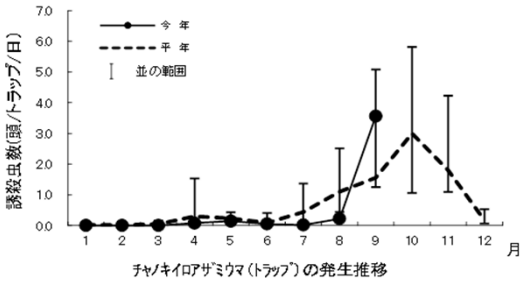
発生量の根拠（調査結果）

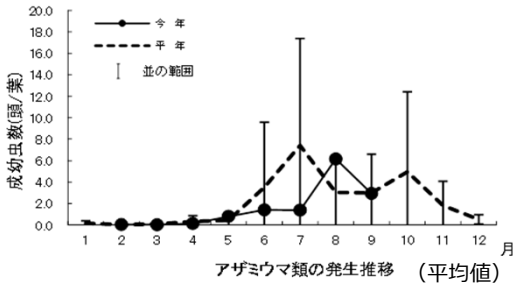
・ ９月下旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数（中央値）は1.3頭（前年1.3頭、平年0.6頭）と平年並であった。

・ 黄色粘着トラップへの日・トラップ当たり誘殺虫数は3.6頭（前年3.5頭、平年1.6頭）と平年並であった。

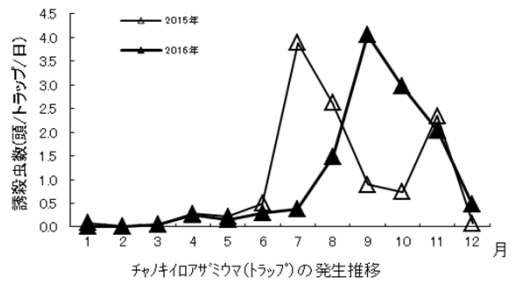
（今年のデータ）







（過去２年のデータ）



防除のポイント

・新梢発生期には本種が増加する傾向にあるので、早期発見・防除を行う。

・不要な新梢は、早い時期に除去する。

・発生源となる施設内外の雑草を除去する。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

・平成29年度病害虫発生予報第５号（平成29年７月27日付）コラム参照。

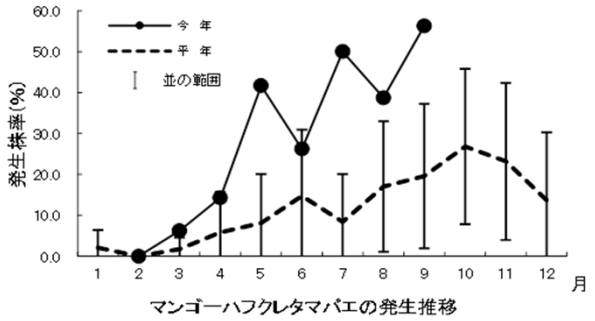
平成　29 年度

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
9 月の発生量（現況）	やや多		
10 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生株率の平年の発生推移、新梢の発生が続いていること、今後１ヶ月の気温が高い見通しから、９月より発生量は多くなると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

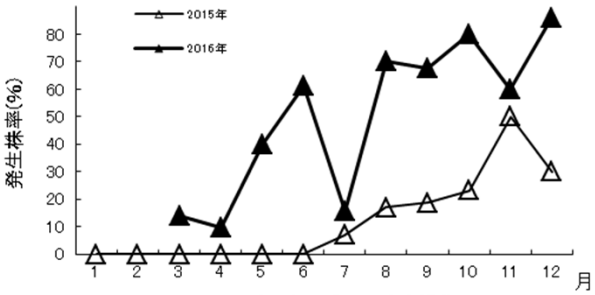
・ ９月下旬の調査の結果、発生株率は56.3%（前年67.6%、平年19.6%）と平年よりやや高かった。

（今年のデータ）



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

（過去２年のデータ）



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

防除のポイント

・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

・平成29年度病害虫発生予報第５号（平成29年７月27日付）コラム参照。

平成　29 年度

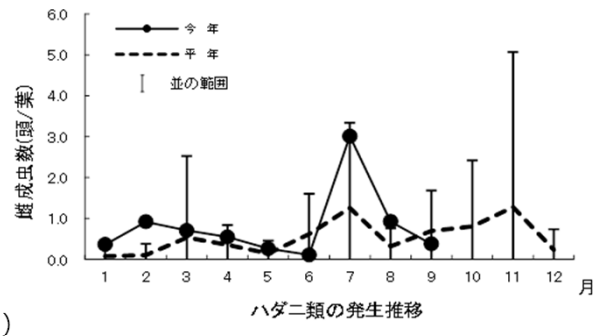
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
9 月の発生量（現況）	並		
10 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、９月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

・ ９月下旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数は0.4頭（前年1.1頭、平年0.7頭）と平年並であった。また、新葉の葉当たり雌成虫数は0.1頭であった。

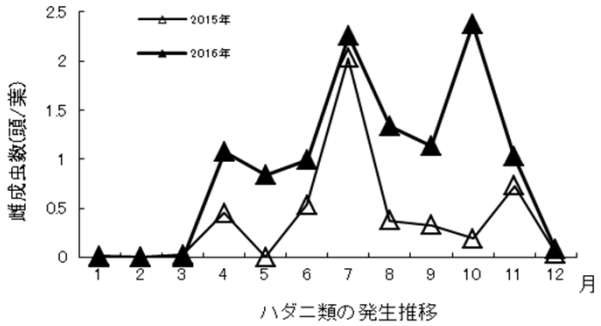
・ 発生種は全てシュレイツメハダニであった。

（今年のデータ）



ハダニ類の発生推移

（過去２年のデータ）



ハダニ類の発生推移

防除のポイント

・晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

・平成29年度病害虫発生予報第５号（平成29年７月27日付）コラム参照。

ハダニの寄生による葉のかすれ症状